

「国際生物多様性年」です

平成22（2010）年は



2010年 国際生物多様性年

問い合わせ 環境課 ☎38-2051

因はまだよくわかっていません。地球上には、動物・植物・昆虫や魚・鳥・微生物にいたる三千万種もの生き物が、存在するといわれています。



ミツバチ

元は一つの細胞から出発したその多様な生物種は、生命の長い歴史の中で、食物連鎖や共生などの関係を保ちながら、生態系のネットワークを作ってきました。こうした地球上の多種多様な生き物のつながりを、「生物多様性」と呼んでいます。

私たち人類の生活や生存は、この生物の多様性を「資源」として利用することによって支えられています。

生物の多様性は、私たちの病気を治し、食糧を供給し、産業に必要な原料を提供しています。私たちの暮らしに起因する現在の環境破壊や地球温暖化などで自然にダメージを与え続けられれば、生物の多様性が失われ、いつかは人間の生存を脅かせることになりかねません。歴史上、持続可能な限度を超えて自然を破壊したために衰退・滅亡した文明もありました。

そんな歴史を繰り返さないために、私たちの努力が、求められています。



1988年までは、いもり谷湿原でも見られたヒメヒカゲ(絶滅)

■生物種の絶滅速度

6,500万年前	1,000年に1種
1600年～1900年	4年に1種
1900年～1960年	1年に1種
1960年～1975年	1年に1,000種
1975年～現在	1年に40,000種

環境省：生物多様性情報システムより

ペットを飼う前に まず考えて！

空前のペットブームと言われている昨今ですが、可愛がっていたはずの犬や猫を「もう飼えなくなった」といって手放してしまう、身勝手な飼い主の存在も目立ってきています。

＜最近の飼育放棄の主な理由＞

- 引っ越しや離婚
- 飼い主の病気や死亡、老人施設への入居
- 犬のかみ癖(人や他の犬に対して)
- 犬の無駄吠えによる、近隣からの苦情
- 家族の動物アレルギー
- ペット禁止マンションでのトラブル
- ペットの高齢化による介護の負担



一時的な気まぐれや思いつきで安易に飼いはじめ始めるのではなく、本当に最後まで飼うことができるのかを家族全員でしっかりと考えてから、犬種特性なども検討し、自分たちに合ったペットを選びましょう。また犬をしっかりとコントロールできるように、しつけ方の勉強をすることも大切です。

野良猫と平和に共生できる社会を目指して

飼い猫は完全室内飼いにし不妊手術を済ませましょう！

市では、不幸な猫をこれ以上増やさず、地域での猫のトラブルを軽減していく方策の1つとして、飼い主のいない猫に不妊手術を実施する(TNR)活動に、昨年度から助成を行っています。



不妊手術を行うことにより、繁殖制限をするだけでなく、発情期の激しい鳴き声や、メスやテリトリーをめぐるけんかも解消するほか、未去勢のオス

によるマーキングの減少という効果もあります。

【TNRの申し込みと流れ】

- 電話で、下記へ申し込む
- 現場の確認と生息頭数の調査を実施
- 状況により、捕獲前の準備(餌付け)が必要な場合あり
- 頭数に応じた捕獲器を設置
- 病院への搬送と手術の実施
- 病院から搬送し、元の場所へ戻す

問い合わせ 環境課 ☎38-2050/
動物愛護協会事務局 ☎38-2033(経済課内)

【いま日本では】
日本は、面積の約七割が森林という先進国の中でも自然の豊かな国の一つです。しかし、高度経済成長に伴う自然破壊や公害や海岸線・干潟の埋め立てなどにより、野生生物の生育地が減少し、また農林業の低迷や過疎化による里山や農地の荒廃や減少、また外来生物により以前は身近にあった水田や草原・雑木林などに暮らす生物が、絶滅の危機に瀕しています。



震災の影響で絶滅が危惧されているウチョウラン

逆により農林業に被害をもたらすシカの増加などは、木の樹皮などを食べ木を枯らせるだけではなく、希少な植物を食べるなど、他の動植物への影響も大きいです。

【いま芦屋市では】
本市でも、絶滅したり激減した動植物があります。

【いま私たちができること】
身近な自然を知る
本市には六甲山や芦屋川、潮芦屋ビーチをはじめ、公園など自然に触れる場所が身近にあります。ぜひ、ガイドブックや図鑑を手に、身近な自然に触れ、学んでみましょう。



ブラックバス 誰かが放流してから増え始め、かつて仲ノ池に生息していたゲンゴロウブナ・モツゴ・タイリクバラタナゴは姿を消しました

「出前講座」をご活用ください

市では、環境問題をはじめとして、さまざまなメニューをご用意して、「出前講座」を受け付けています。地域でのグループ学習会などに、お気軽にご利用ください。

問い合わせ
生涯学習課 ☎38-2091